

本島系統によるハワイ伝道開始

1929年にハワイ最初のホノルル教会（本島部属、上野作次郎会長）が設立されると、数年のうちに次々と教会が設立され、ハワイの天理教伝道は組織的に展開するようになった。その中でも特に本島大教会は派遣布教師数、設立教会数において特筆すべき伝道を行っている。片山好造2代会長が派遣した布教師たちは現地に在住していた教友の協力を得ながら活発な布教活動を展開し、1934年までの5年間で11カ所の教会を設立するにいたった。本号ではこの本島系統による組織的伝道をみていくことにする。

片山会長は、「常に時代の動向や、お道の進路、時句の動きなどに注目し、時句に即応した布教活動を着実に展開した。巧みな計画、先を見る機敏さ、そして行動力は抜群であった」（天理教ハワイ伝道序2006、14頁）といわれる。そして効率的に布教拠点を拡大していく方法として、拠点を順番に設けていき最終的に元へ戻るという「ブンマワシ布教」（飯田1984、23～26頁）を考案し、実践した。日本海、シベリアと中国北東部などの東北アジア地域においてブンマワシ布教を展開した後、片山会長はこの経験を土台としてアメリカ布教を目指すことになった。

本島系統の布教師たちは、1927年の岡崎ヨ子と鳥澤林蔵を皮切りに、数年にわたって次々とアメリカ本土へ派遣された（2017年5月号参照）。そして、ターミナル島で布教中の鳥澤からハワイのホノルルへ布教師を派遣してもらいたいとの依頼を受け、片山会長は当時京都で布教していた上野作次郎をハワイに派遣することを決定した。こうして上野は妻津志とともに1929年にハワイに向け出発する。さらにその2年後には尾立金左衛門、木村伊平、谷川米四郎らが教会設立の認可を受けてハワイへ渡った。またすでにハワイに移民していた瀬戸七郎治も1931年にオアフ教会を設立した。以下、本島系統によるハワイ伝道の礎を築いたこの布教師たちの様子について述べる。

本島の布教師たち

上野作次郎は1880年福岡市住吉町に生まれた。20代に福岡県で農業技師として働き、29歳の頃には朝鮮総監の農林関係の仕事をしていた。34歳の時に入信し、別科卒業後、東京そして京都で布教に従事していた。上野はハワイ出発に際し教会本部からホノルル教会設置の許可を得た。ハワイの現地邦字新聞で日本から天理教の布教師来るとの報道がなされていたため、上野夫妻が到着するとすでに移住していた教信者たちが次々と夫妻を訪れた。系統を越えた人々が集まり、前号で述べた先駆的伝道者たちはその布教活動に拍車をかけ、また長く天理教から離れていた人々もその信仰を取り戻していった。

到着直後から上野夫妻はにおいがけ・おたすけに励んだが、その布教活動の上で最も力になったのが菅猪之助・芳枝夫妻であったとされる。菅猪之助はハワイで輸入販売業を営んでいた飯田翠山堂の支配人であり、仕事の関係でハワイの島々を回ることが多かった。そこで、各地での様々な情報を上野に伝えたり、また支配人という立場とその信用度から、日本より派遣されて来る布教師の保証人になるなどして、上野夫妻の布教活動の上で大きく尽力した。こうしてその布教活動はオアフ島のみならず、

カウアイ、マウイ、ラナイなどの島々へと拡大していった。

鹿児島県出身の尾立金左衛門は、神戸で病気になった時天理教の話を聞いて入信し、別科修了ののち仕事をしながら熱心に信仰していた。その頃ハワイ島ヒロにあるマウンテンビューという町にいた中尾三郎助（尾道部属の教会長子弟）から上野作次郎へ布教師派遣の依頼がなされ、尾立が派遣されることとなった。1931年1月にヒロ教会設立許可を受け、2月にハワイへ渡った。ホノルル教会へしばらく滞在した後、ハワイ島へ渡りヒロでの布教活動を開始した。1884年に開始された官約移民以来、多くの日本人が契約移民としてサトウキビ・プランテーションで就労していたが、労働契約期間終了後も引き続き労働する者、他の職業に就く者、また自営業をおこす者などがおり、ヒロには多くの日本人が移住していた。その中には天理教の信者も含まれており、ヒロ教会設立を知った人々は、教会へ参拝するようになった。

別科修了ののち布教活動に従事していた木村伊平は、片山会長からハワイ布教の命をうけて、1931年7月にカワイ教会（現オープン教会）設立許可を得て、妻子とともにハワイへ渡った。ホノルル教会信者の平野留治郎の親戚がカウアイ島のプランテーションで労働していたため、そのつてを頼りに同島で布教を開始した。その後土地の事情などによりホノルルへ移動して布教活動に励み、のちに教会長となる伊藤ヤノ、伊藤辰蔵・ミツ夫妻などの人々を導いた。

ホノルル教会開設以来、ハワイでの布教活動が活発化し教線も急速に伸展していく中で、マウイ島にも拠点を設ける計画が進められた。谷川米四郎は1931年7月にマウイ教会設立認可を受け、9月に妻子と共にハワイへ渡った。しばらくホノルル教会に滞在した後、マウイ島に渡り布教を開始した。前述したホノルル教会の信者菅猪之助は度々商用でマウイ島に出張していたことから知人も多く、教会設置や布教活動の上での尽力が得やすかった。谷川は自身や家族の病気など様々な苦難を通り1937年に出直すことになるが、谷川によって導かれた久尾アヤノがその跡を継いで2代会長に就任し、活発な布教活動を展開した。

前号でも紹介したように、福島県出身の瀬戸七郎治は自由移民の時代になってからハワイに渡った一人であり、サトウキビ・プランテーションで就労しながらにおいがけ・おたすけを行っていた。活発な布教活動を展開する上野夫妻の薫陶を受け、瀬戸は日本に一時帰国して別科を修了した。1931年9月にオアフ教会設立認可を受けハワイにもどると、ホノルルに拠点を構え布教活動に専念した。息子直一も別科を修了し、理髪業を営みながら父親の布教活動を支えた。教会は日本人が非常に多い町にあり、多くの人が参拝するようになった。

[参考文献]

飯田照明『ハワイ伝道の曙—上野作次郎と津志』天理教道友社、1984年。  
本島大教会史編纂・史料収集委員会編『天理教本島大教会史』天理教本島大教会、1992年。  
天理教ハワイ伝道序編『天理教ハワイ伝道史』天理教ハワイ伝道序、1957年。  
天理教ハワイ伝道序編『天理教ハワイ伝道序50年史—伝道序史編』天理教ハワイ伝道序、2006年。